

がん検診 受診率

100%達成

(株)フジタ建設コンサルタント

健診受診を支える
きめ細かなフォロー

「明日、健診を受けに行ってください」。(株)フジタ建設コンサルタントでは、健診期間内には社員同士が自然と声をかけ合い、「健診を受けるのは当たり前」という風土ができています。

同社では35歳以上を対象に、全国健康保険協会の生活習慣病予防健診を実施している。これには肺・胃・大腸・子宮・乳房の5つのがん検診が含まれており(下表)、すべてを同日に受診することが可

能で、その受診率は100%を達成している。

「近年はずっと100%の健診受診率を達成しています。健診に関する業務は管理部総務が担当しており、健診の申し込みから結果の管理、精密検査が必要となった社員への受検勧奨と結果報告、つまり『健診の入り口から出口まで』を一元管理しています。健診は業務時間内に受けることができ、各自が都合に合わせて日時や受診内容を決めていきます。健診受診に特別な申し出は不要で、社員は健診を受けてから出社しています」(同社管理部総務担当・三木朋子さん)

これが冒頭の声かけにつながっている。

2024年度には「健診の入り口から出口まで」をシステム化したことで、集計や分析、一人ひとりの金額の算定等が自動でできるようになった。助成費用以上のオプシヨン代金は給与から天引きされる。これらの業務改革を推進したのは、管理部課長の徳川慎也さん。「全社員が見ることのできるグループウェアを使って、期間中であればいつでも健診を申し込めるようにしています。各自の健診スケジュールはグループウェアで公開されているので、いつ誰が健診を受けるのかがわかります」と話す。

管理部では毎年、全社員一人ひとりの対象検査項目リストを作成し、全員が健診を申し込んでいるか、リストと照らし合わせて受診項目に漏れがないかをチェックしている。女性の子宮頸がん検診と乳がん検診は厚生労働省の指針では隔年実施だが、同社は市町村のがん検診クーポンを利用しての毎年受診を推奨しているほか、自分で乳がんのセルフチェックができる「プレストケアクラブ」を全女性社員に配付して、女性社員の健康を見守っている。

表 生活習慣病予防健診で受けられるがん検診

胃がん検診	胃部X線検査	35～74歳
肺がん検診	胸部X線検査	
大腸がん検診	便潜血反応検査	
子宮頸がん検診	細胞診	20～74歳の偶数年齢
乳がん検診	乳房X線検査	40～74歳の偶数年齢

健診の結果は管理部で把握しており、要精密検査対象者にはその受検費用を上限5000円まで助成している。健診案内時および健診後には、グループウェアで精密検査を受けることの重要性を丁寧に伝えるほか、管理職からも課内会議等で精密検査の受診勧奨を行っているが、100%に届いていないのが現状だ。「今後も『健診は精密検査が終わるまで』ということが社員に浸透するまで声をかけ続けます。中小企業だからこそ、家族のように声かけができるのが強みです」と三木さんは言う。

社員を思う会社の本気が
伝わる施策の展開

同社は創業当時から経営者の「会社の健康は社員の健康から」という考えのもと、健診をはじめ、社員の健康づくりを積極的に推進してきた。その姿勢や思いやりが会社全体に浸透し、「健診を受けるのが当たり前」という風土を築き上げてきたといえる。

三木さんは振り返る。「毎年、健診を受けていても、がんや脳・心臓疾患等に罹患した社員もいます。しかし、どの社員も早期発見・早期治療が功を奏し、病気のために退職した社員は今まで一人もいません。とくに、がんや脳梗塞に関しては、がん検診や脳ドックによる早期発見・早期治療により、思ったより早く現職に復職することができました。健診の大切さを痛感しました」。

復職に際しては、「両立支援コーディネーター」の資格を有する三木さんを含めた2名の社員が、本人や医療機関と連携を図りながら復職支援プランを立てて、スムーズな復職を支援している。

2019年から実施を始めた脳ドックは、昨年から定期健診と



「どこでもラジオ体操」毎日実施しているラジオ体操。社内のどこにいてもラジオ体操ができる。藤田社長(右写真)ももちろん実践している。

同じ健診機関で同日に受けられるようになり、社員の負担も軽減された。健診の内容については関係者で毎年協議をしており、昨年は、現場作業に携わる社員全員に蜂抗体検査を実施した。

「山などで測量する場合は、ミツバチやスズメバチなど蜂に襲われることがあります。今までは自分で検査をして、アレルギーのある人は抗体薬を携帯して現場に出向いていたのですが、現場からの要望もあり、昨年は全員検査をして、今年の新入社員からは雇入時健診で必須としました」(徳川さん) また、最近は業務のほとんどがパソコン作業であるため、眼の詳細

しい検査をしたほうがよいとの考えから、今年からVDT検査をオプションで開始したそう。 こうした社員の安全と健康を守る施策を通じて、「会社が本気で社員の健康を大切に思っていること」が、社員一人ひとりにしっかりと届いているとわかる同社の施策のひとつに、朝の「どこでもラジオ体操」というのがある。このラジオ体操は、一カ所に集まって行うのではなく、社内にあるスピーカーからラジオ体操の音楽を流し、どこで体操をしてもよいというスタイルだ。もちろんラジオ体操をするか否かは自由だが、ほとんどの社員がさまざまな場所で実施している。会社も社員も本気で健康を大事にしている。これこそが、がん検診受診率100%達成の理由だろう。

(株)フジタ建設コンサルタントは、「健康経営優良法人2025(中小規模法人部門(プライト500))」をはじめ、「令和6年度がん対策推進パートナー賞(中小企業部門)」「スポーツエールカンパニー2025シルバープラス」など、数々の健康経営に関する賞を受賞している。



▲令和6年度がん対策推進企業表彰式。藤田達也代表取締役(右)とプレゼンターの一人、がん対策推進企業アクションアドバイザー・中川恵一先生(東京大学大学院医学系研究科 特任教授)



▲徳島県にある(株)フジタ建設コンサルタントのみなさん。会社の本気が社員に届いているからこそ、健康を大事にする風土がつけられることを教えてくれる。